

令和 6 年度 県立境特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆一人一人が自ら行い自ら学び、できる喜びを感じることができる学校 「かがやく学校」 ◆学んだことを周りの人に伝え合い、分かち合うことができる学校 「ひびきあう学校」 ◆学校と地域が助け合い、認め合い、多くの人と繋がり合える学校 「つながる学校」		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○安全な給食の提供。 ○ヒヤリハットの情報の共有。 ○災害時に適切な行動がとれるような防災意識の向上。 ○育成を目指す資質能力を踏まえた授業の実践。 ○ICT の効果的な活用による、わかりやすい授業づくり。	I ニーズに応じた指導の充実	①様々な I C T 機器を活用したアクティブラーニングの実践 ② I C T 環境の充実と、教材データ化による指導の充実 ③発達段階に応じた教育課程による小中高一貫性のある実践 ④体験型学習やデュアルシステム型実習の積極的活用	C
○「さかたくインクル協議会」の開催による、通学区域小中学校との連携。 ○研修会や学校公開、職員の体験研修等を通じた小中学校との積極的な連携とセンター的機能の強化。	II 安全安心な学校作りの推進	①児童生徒の心身の健康を図る保健安全、食育指導の実践 ②施設・設備の点検改修による安心安全な環境作り ③感染症のガイドラインに基づく持続可能な学習環境作り ④ P T A や地域と連携した大災害時の防災体制の確立	B
○地域交流や学校間交流等の活動の実施による児童生徒の社会性や主体性の育成。 ●「令和 6 年度学校安全総合支援事」への学校全体での取り組み。 ●地域や P T A との連携の強化。 ●教育課程再編成後の確認と評価。 ●系統性ある年間指導計画の作成。 ●コミュニティ・スクール導入にむけた地域とのネットワークづくり。	III 地域の連携とセンター的機能推進	①地域・小中高との交流推進や地域行事への積極的参加 ②地域のセンター的機能としての支援の充実 ③外部団体や地域資源を活かした P T A 活動の充実 ④学校教育活動の公開や H P を利用した情報発信	B
●就学前の幼児等への支援の充実。	IV 教員の意識向上のための研修の充実	①教員が学び合うための現職教育の充実 ②特別支援教育の専門性を高めるための研修 ③児童生徒同士の健康や安全を守るための研修の実施 ④教員コンプライアンス意識を高めるための研修	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	安心安全な学校づくりに向け、危機管理意識の向上 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災イヤー」として位置づけ、境町小・中・高等学校、PTA や地域と連携し避難訓練などの体験学習を実施、学校安全総合支援事業の実施。 ・保健安全や食育指導のための研修の更なる充実と継続。 ・月一度の定期点検や迅速対応による施設・設備の環境の確保。 ・感染症対策の継続と迅速な拡大防止対策。 	II-①②③ ④ IV-②③	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間をとおして、避難訓練や各種体験、校外学習など全校で防災に関連した学習を計画的に行い、児童生徒や職員の危機管理意識を向上させることができた。 ○児童生徒の食の安全や職員の健康に関する研修を実施し、安全に日々の指導を行うことができた。 ○毎月の安全点検をアンケートフォームを活用して実施し、修繕など迅速に対応することができた。 ●保護者や地域の方々と連携した安全管理体制の充実。 ◇全学年での引き渡し訓練の実施、地域の避難所を想定した避難訓練の実施。
教職員の育成及び指導・監督	授業改善に挑む姿勢の向上 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックや学年での研究協議の内容の校内共有。 ・児童生徒一人一人の RPDC A サイクルの目標設定。 ・般化検証のための般化シートの作成。 ・研究協議への参加と助言。アンケートの実施。 	I-①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> ○計画訪問と関連付けながら学校全体で児童生徒の身に付いた力の般化のプロセスについて研修を深めることができた。 ○教育課程を改善し、評価しながら実践した。 ○各部において、長期的な展望での指導に向けて、年間指導計画の改善を進めることができた。 ●教科間の関連や系統的な指導の充実。 ◇教科横断的、長期的な展望での指導の実践。
対外活動	①地域の学校との連携を強化。研修会等への参加 80% ②地域への広報活動 5 回	①「さかたくインクル連携協議会」の継続。 ①学区内幼・小・中学校への丁寧な事業説明の実施。 ①学校公開に合わせての研修会の実施と教材教具の紹介。 ①小・中学校との職員交換研修の実施。 ②学校の様子としての広報紙の発行や学校公開の実施。 ②交流活動の推進。	I-④ III-①②③ ④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○さかたくインクル協議会を継続して実施。近隣校と相互の職員体験研修や、オンデマンド研修、3 回の学校公開を実施した。 ○地域住民や福祉、企業関係者等を対象とした学校公開を実施し、多数の参加いただいた。 ○近隣校等で地域連携の取組を紹介したり、定期的に広

					<p>報誌を発行したりして理解を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園や保育園関係者も対象に学校公開を実施することができた。 ○各学年で直接交流による学校間交流を実施することができた。 ●就学前機関への広報活動の更なる充実。 ◇就学前機関の支援の継続。
コンプライアンス確保	教職員全体のコンプライアンス意識の向上 (80%) 不祥事0件	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担の詳細を提示して周知徹底。 ・オンライン研修とコンプライアンスミーティングの学年単位等での意見交換しやすい場の設定。 ・事例や新聞等での情報の周知 (随時)。 ・クラスルームでの情報の共有。 ・当事者意識のアンケート調査を実施。 	IV-④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○若手職員が中心となってコンプライアンスミニ研修を企画。各学年単位で研修を深めることができた。 ○新聞報道等随時クラスルームで周知し、情報を共有してコンプライアンス意識の向上を図った。 ●ヒヤリハットの事例報告数が増したが、学部学年によって偏りがある。 ◇ヒヤリハット集約の工夫。
働き方改革	時間外労働の減少 年間 360 時間以上の時間勤務者 0 人	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤時間の徹底と完全退勤時間の厳守。 ・会議前に内容の確認徹底と会議時間の終了時間の周知。 ・ICT 機器の活用とスプレッドシートによる記録時間の削減。 ・教材データの再利用の推進。 ・年度初めと末にアンケート調査。 	IV-①②④	B	<ul style="list-style-type: none"> ○Google Workspace を活用し、効果的な情報伝達や集約や会議を実施した。 ○毎週金曜に提示退勤日を設定。毎日の完全退勤時刻を設定した。 ●教材データベースの活用など授業準備の効率化への工夫が必要。 ◇年間指導計画と関連付けた教材の共有等の実施。
ICT活用	ICT 機器の教材・教具や補助具としての有効な活用数増加。100%	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌担当者と連携し、効果的な利用方法の具体例やアプリの紹介の実施 (他校での情報収集も含む) ・授業改善研修等での好事例の収集と、職員間の共有。 ・アンケート調査の実施。 	I-①② IV-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各部において ICT 機器を適宜活用しながら効果的な指導を行うことができた。 ●高等部生徒の BYOD 端末の整備状況が十分でない (80%)。 ◇保護者への十分な説明も含め、BYOD 端末の整備を進める。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない